

20周年特別号

目次

20周年に寄せて	会長 相川 澄夫 尾上 伸一 廣瀬 隆夫 寺尾 勝廣 長崎 和則、洋子、光則、美樹、久桂 山田 陽治 学生部初代部長 飯村 優介 学生部OB (大学生) 山下 佳大	p 2~8
特別寄稿 侍従川の四季 (昭和初期)	元顧問 廣瀬 一雄 解説「侍従川の四季」について 廣瀬 隆夫	p 9~11
20年後の侍従川	~当たり前の20年後~ 学生部 (高2) 金子 英司 ~侍従川の思い出~ ジュニア (小6) 梅本 拓実 ジュニア (小6) 深沢 大地 ジュニア (小6) 尾池 実 ~アユの産卵 in 侍従川~ ジュニア (小1) 鳥越 珠貴	p 12~13
20年を振り返って	佐野慎吾が語る侍従会の思い出 特別編 平成5年年 (はだかの大どき) サバァル第1号 平成5年6月~平成7年3月 大道ふるさとの生き物に親しむ会での歩み 第29回全国野生生物保護実績発表大会 環境庁長官賞 講演録全文 平成7年 侍従川生き物MAP 平成8年 年報 平成9年 かわらばん第1号 秘蔵写真大公開 (平成10年4月~平成19年9月)	p 14~28

20周年に寄せて

会長 相川 澄夫

ふるさと侍従川に親しむ会がスタートしてはや20年を迎え改めて年月の過ぎるのが早いものだと思います。

20年前大道小50周年記念の一行事として、大道の原風景である谷戸のため池を学内にとの発案ではじまったトンボ池。当時の塩田校長、古家副校長、野村先生、五味先生、そして尾上先生とともに教職員、保護者、児童、地域、皆でスコップを手に汗を流して作ったトンボ池でした。環境研究所の故森清和さんからゆずり受けた、絶滅したといわれていた横浜黒メダカ200匹のうち100匹を池に放流しました。元日本野鳥の会の神奈川県会長でもあった、私が中学時代の担任でもある恩師の村上司郎先生にも池を見てもらい「学校内での池の維持は地域でやっていかないと意欲のある先生が転勤してしまうと池自体がなくなってしまふよ」というアドバイスをもらい、池の維持のため熱心に取り組んでいた尾上先生とも相談し「大道ふるさとの生物に親しむ会」を立ち上げました。

翌年になると子ども達から「川にもメダカがいるよ」との報告があり、改めて川の中を観察してみるとメダカが群れをなして泳いでいるではありませんか。きっと池で増えたメダカが雨水管を通過して川に行き増えたのでしょう。

子どもの頃から川は汚れてきたないものと決めてかかっていただけに川に、入ってみるとゴミは多いものの水はきれに澄んで生き物の姿も多いことがわかりました。川沿いのフェンスには「川に入るな大道小PTA」という看板があちこちに取り付けられて、「川は汚い所に入って病気になったら大変」という思いからだと思いますが、下水道が完備したことにより生活排水が流れ込むことがなくなったためだと思います。

川にも豊かな生き物の姿が多くあるならば会の活動も池の維持だけでなく川のゴミを取ったり草を刈ったりして生き物がたくさん見られる川にしようとの活動を池から川へ広げようということになり、会の名称も「ふるさと侍従川に親しむ会」と改めくく子どもたちが遊べる川に>>をスローガンに活動が始まり20年を迎えました。

まさに点の活動が川という線へとひろがったということです。

会員数も100名をこえ、子どもから大人までの大所帯になり、川の清掃、草刈り、生き物調査等、ジュニア、学生部の活動も続いています。多くの会員の協力があつたからだと感謝しております。

ホタルが再生し、ハグロトンボも姿を見せカワセミ、白サギ等又ハゼの仲間、ウナギ、アユ等も川で見ることができるようになりました。これも長年の活動の成果だと思っています。

この大道の地域には朝比奈の森があり、小さいけれど自然豊かなきれいな川がある。ここに住む多くの人達、ここで育ってくる子どもたちが「ふるさと」という思いを持てるような地域になって欲しいと思います。

一昨年から近隣の小学校も総合学習で侍従川をとり上げ、川に入って生き物をとったり、観察したりして身近な学習場所としても利用されています。

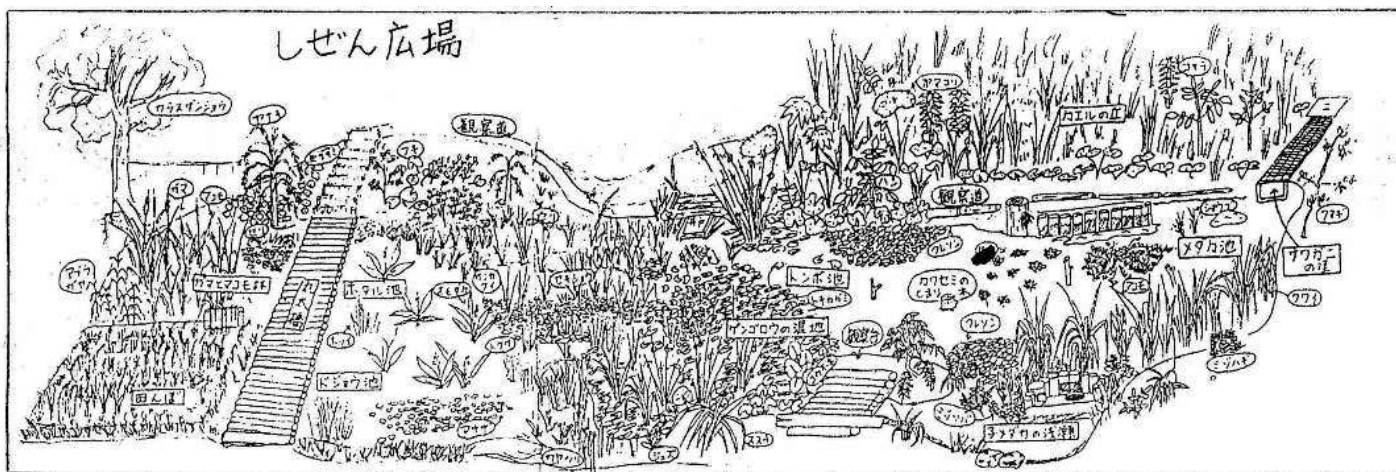
ただ、問題もあります。川に堆積された土により川の容積が減少することによって洪水を心配する声もあがり、管理者である県の横浜治水事務所では川底の浚渫工事をして川底を下げるという方針を考えているようです。そうすると生き物は住みにくい川になってしまいそうです。

人間の生活の維持のための治水か自然回復か非常に難しい問題がさしさまっているのも事実です。両方を解決する方法を思案しているところです。



尾上 伸一

今年（平成25年）2月2日（土）に、同窓会がありました。今、30歳の人達と本当に久しぶりに会いました。この人たちが小学生の頃に、大道小学校に自然広場が出来上がり、「大道ふるさとの生き物に親しむ会」が発足しました。毎日、自然広場の池で生き物の観察をして、毎週、探検に出かけました。侍従川を生き物でいっぱいにと、源流から下流まで、全ての町内で川の掃除をしたり、生き物の住処になるようにアシを植えつけたり、水質浄化のための炭と石を詰めた蛇かごを源流に設置したり、・・・と、とにかくまあいろんなことをやりました。大道中学校の生徒会といっしょにゲンジボタル復活大作戦を始めたのも、この人たちが中学生になってからです。同窓会で出てくる話も、そんな話ばかりです。学校の同窓会というか、同好会の同窓会みたいでした。



2月9日(土)には、これまた(私としては)本当に久しぶりに泥牛橋から大道橋まで、侍従川を歩きました。子ども20人くらいといっしょに、寒い冬空のもと、生き物探しをしながら、20年前のことをいろいろと思い出していました。当時の子どもたちの歓声、笑顔、見つけた生き物、そして見守ってくれていた地域の大人の方々。川のまわりの風景は、少し変わったところもありますが、子どもが川に入ると20年なんてあっという間だと思いました。遠くに見える旧家、明戸橋、ちとせ園、侍従川の清らかな流れ、ヒヨドリ の鳴き声・・・20年前と何も変わっていません。川の中からは、網を持ってウキゴリやヨシノボリ、そしてヤゴや水生昆虫をつかまえる子どもの歓声が聞こえてきます。「ここが自分のふるさとだ」と思いました。

昨年夏から、侍従川で暮らしているヘイケボタルの幼虫を自宅で育てています。大道小学校でのホタル観察が、再び地域の歳時記になるといいなあと思っています。

廣瀬 隆夫

昔の侍従川は人びとの暮らしに密着していたようです。侍従川の豊富な水は、大道耕地と呼ばれた広い田畑を潤し、上行寺の近くにあった塩場で作った塩を舟に乗せて運ぶ水路にもなっていました。水がきれいで、生き物たちもたくさん棲んでいました。しかし、高度成長の時代に汚染が進み一時はドブ川のようになっていました。

今から20年前、侍従川を昔のような清流に戻したい、子どもたちがもう一度遊べる川にしたい、という願いをかなえるために「ふるさと侍従川に親しむ会」が出来ました。

メタンガスが発生するドブ川だった侍従川は、見違えるようにきれいになり魚が増えました。上げ潮になるとボラの大群が川をさかのぼります。ハゼ釣り大会を毎年行えるほどハゼが増えました。清流にしか棲めないと言われているアユも戻りました。カワセミなどの野鳥、アカガエルなど両生類、アオダイショウなどの爬虫類、ハグロトンボなどの昆虫も数が増えています。夏になると中流域に蛍がでます。網を持って遊びまわる子どもたちの姿を見ることも珍しくなくなりました。

現在、侍従川は、人々の癒しの場として、自然とのふれ合いの場として、子どもたちの遊び場として大きな役割を果たすようになりました。インドではガンジス川が今でも母なる川として大切にされています。子ども時代に侍従川で遊んだ大人たちが大道に戻ってきたとき、ふるさとの川は良いなあと、感じるができる侍従川であり続けてもらいたいと願っています。



川は皆の共有な財産である。その中でも侍従会は特に侍従川に愛着をもった人々が運営している。だからこそ20年間存続し今後も続いていくと信じている。

会には大きく分けて二つの流れがある。ひとつは侍従川を愛し『子どもたちがむかしのようにもう一度遊べる自然豊かで、ゴミなどの浮いていない美しい川として守り育てていく』ことを主眼とした仲間達。他方の流れは、戻ってきた『自然環境に触れ、観察し、新たな発見に興奮する』仲間達。同時に体験や興奮を他の子どもたちに『つなげる』役目を果たしている仲間達。

大道出身ではない私としては、ひとつ目の流れが20年かけた成果が、ふたつ目の流れとして今あるのだと思える。逆に言えば、二つのながれは上流から下流に流れる一本の川であるがゆえに、交じりあいが少なくなっているとも言える。

上流側の仲間たちが常々、今の環境を維持するための活動をしているからこそ、下流側の仲間達は川に入って「ガサガサ」をしようと思えることができているのだと思う。上流側が手を止めたらどうなるのだろうか？ 書くまでもなく皆さんの頭には映像が浮かんでいると思う。そうならないよう侍従川を愛する仲間の力を結集して、川の環境を維持する活動を続けていきましょう。



平成8年頃の侍従川

長崎 和則、洋子、光則、美樹、久桂

20周年おめでとうございます。

長く活動されていることを知りました。とても素晴らしいです。

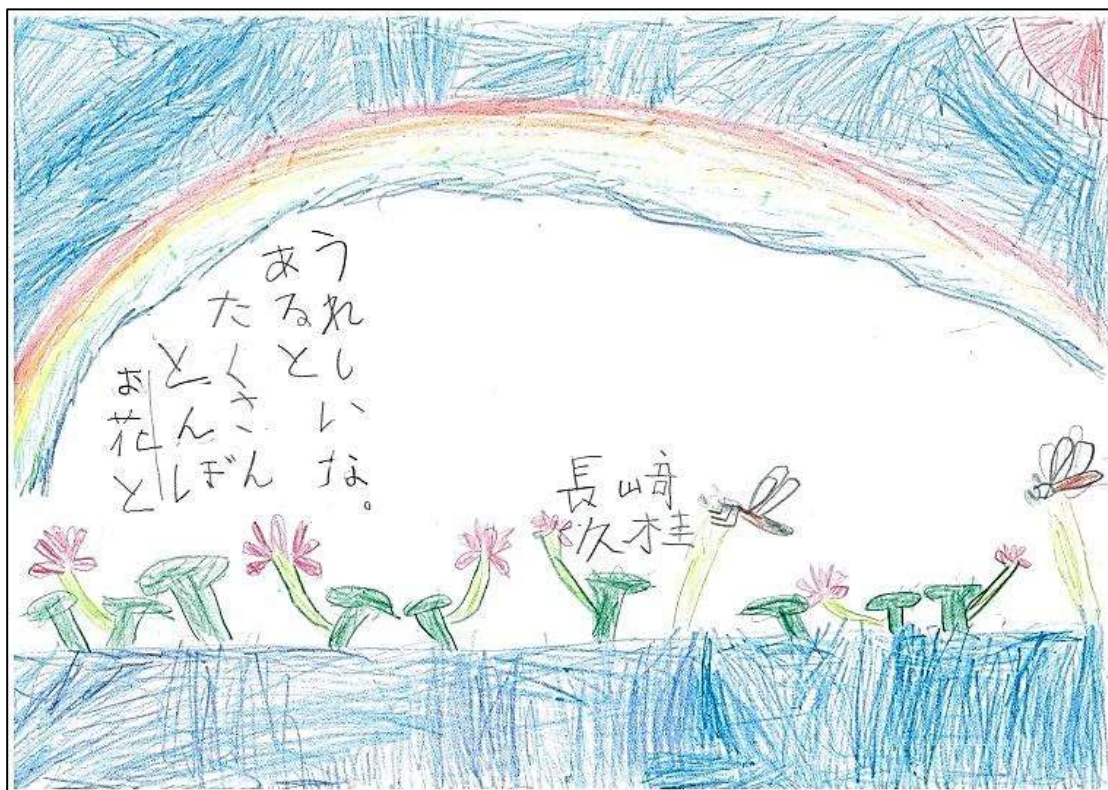
私達は4年前に、モリ・コロ森へいこうよでワイルドに登場する山田さんが活動している会としてこのふるさと侍従川に親しむ会を知りました。

会に参加する度に驚き凄いと関心しています。

『川をイカダ下り海まで行く。採った草をてんぷらにする。釣った魚もてんぷらにする。森に入って探検。川に入って掃除等』都会の中でこんなワイルドな体験が出来る。そして子ども達が参加出来る。さらに大きいお兄さんお姉さんから小さい子まで様々な年齢が教え合う場があります。

運営されている方の熱意と意欲が伝わって来る会であり、素晴らしい方々と会えます。今後も活動が出来る自然環境を力を合わせて守り、次に繋いで行けられる事を願っています。

ジュニア (年長) 長崎 久桂



ジュニア (小6) 長崎 光則



平成4年…まだ22歳の青年ヤマダは、友人であり、横浜市行政マンとして当時トンボ池づくりを推進していたウメダ君に連れられて、母校である大道小学校にやってきた。ここでは、ボクの卒業したすぐ後に大道小学校に赴任されたオノエ先生がいて、一緒にトンボ池づくりをするとともに、大道小学校に出入りするようになった。大道小学校の先生やPTA、保護者、卒業生とで「大道ふるさとの生き物に親しむ会」を結成し、青年ヤマダは現場部隊として、また当時メンバーだった中学生の“お兄さん”として活動をするようになった。



中学生たちと、トンボ池だけでなく地域のフィールドを探検・調査していくうちに、地域を流れる侍従川にメダカがいることがわかった…ボクが子どもの頃は侍従川=汚いドブ川であったので驚きだった。さらにアユまでいるのにはビックリさせられた。大道ふるさとの生き物に親しむ会も、そんな魅力ある侍従川を活動場所にしようと「ふるさと侍従川に親しむ会」と名を改め、活動エリアも侍従川流域とることになり、様々な方々と活動し、現在に至る…

ナチュラリスト志望の青年ヤマダが、実際に地域の自然の中で活動することによって気づいたことや蓄積していったものがあり…また、会長からは「ふるさと」について教わり、当時学生部部長だったイームラ君には、侍従川流域の知らない場所を案内してもらい、侍従会のたくさんの方々との活動が、「地域=足もと」の自然を見、活動していくことの大切さを知った。

活動当初のリーダーであった、オノエさんからは、一緒に活動する中で、子どもたちとの関わりなど様々なことを教わり、侍従川流域に、子どもたちの学校など様々な枠を超えたコミュニティができ、侍従川を媒介にして人と人とのつながりができ、「ふるさと」侍従川となったと思う。さらに、侍従会結成当時に掲げた『もう一度子どもが遊べる川に～侍従川』のスローガンも、侍従会の活動のみならず、流域の学校でも侍従川に入るなど、ある程度達成されたように思う。

20周年の節目で振り返ってみて、侍従川が地域のふるさとになる成果があったとともに、個人的にも『モリゾー・キッコロ森へいこうよ!』（NHKEテレ）の出演など、自然遊びのプロとして、何とかではあるが(^_^;)その道で生きていけるようになったのも、ふるさと侍従川に親しむ会があつての成果が出てきたのかなと（まだまだですが…）。

これから、もっと地域の人たちにとってのふるさとと呼べる侍従川にしていくとともに、ふるさと侍従川に親しむ会から、子どもや若者が羽ばたいていってもらいたいと、42歳にとちよっぴり大人になったヤマダは考えています。

侍従会20周年めでたく、年月の重なりも想起される。

当時の泥んこになりながら、数々の発見をし、学校内の旧体質の管理主義を自然広場の設立で改革し、環境庁長官賞で、地域にPRもでき、大道小学校は環境教育にて全国をリードできる場になる。

大雨の中、源流の森でキャンプをしたり、真夜中の峠ごえの生き物観察、海でのサバイバル、流域から三浦半島まで探検した。

エネルギーあふれる少年チームと先見的で行動力ある大人チームが世代を超えて繋がり、持続可能で多様性のある会の土台ができた頃でもある。

幾度かの危機もまた乗り越え、大道中学校の溪谷も希少種のホトケドジョウやゲンジボタルの宝庫、小学校に続く環境教育の場とすることができた。大道自然広場もさらに水田と井戸を併せ持つふるさと大道村へと拡大する。源流の森から野島の浜まで、流域全体の中でまだいくつもの課題も多く、工夫を重ねれば生き物もさらに豊かになり、自然からの恵みも味わえるようになり、保水力も復活し減災にもつながるだろう。

学生部からもスペシャリストが各分野で育ち、充実した活動と質の高さを形成している。参加しやすい会づくりと小さい子から自然の中で思いっきり遊べる場づくりの成果でこれからも続いていく要因であろう。

学生部OB (大学生) 山下 佳大

小学6年生のころ、もともと自然に興味があった私は、友人の青木君に連れられて侍従会に参加しました。小学生のうちにはただ行事に参加するだけだったのですが、中学生になり学生部として本格的な活動に参加し始めた気がします。

そのひとつが月に1度の学生部定例調査です。どこかに必ず穴が開いている胴長靴を履いてひとり1つ網を背負い、侍従川の魚たちを捕獲する。毎月調査をすることによって自分の捕獲の腕もあがり、網の中に魚がたくさん入るようになったときの嬉しさは今でも忘れません。

また、20歳になった今でも大好きな行事は、侍従川中流から野島まで手作りいかだで下る「侍従川いかだ川下り大会」です。侍従川で刈り取った葦で作った「葦船」も年を重ねるにつれ進化しているのではないのでしょうか。

そして最後に、侍従会に入って一番良かったと思うことは、年上から年下までたくさんの人々と繋がりを持てたことです。侍従川再生という一つの目標に向かって過ごしてきた日々は、今でも素敵な思い出と友人たちを与えてくれたと思います。

今までの侍従会での経験を生かし、20歳になるこれからを過ごしていきたいです。

特別寄稿 侍従川の四季（昭和初期）

元顧問 廣瀬 一雄

【春】

雪が溶けて田の面に張った氷も消えて田んぼに水たまりが出来るころになるとオタマシヤクシが泳ぎはじめる。

みょうどの吉野桜が満開になって当たり一面花吹雪になる。竹藪ではウグイスがなき田んぼの土手にはツクシが顔をだしタンポポの花でうまる。かすがめんのネコヤナギも白金色の芽を吹きはじめる。



大道村風景1（昭和4年3月）

【夏】

五月そろそろ水もぬるまって農作業が始まる。稲の苗も大きくなって子どもたちは苗間に入り害虫のズイ虫を取る。六月中旬の夜になると夏祭りの太鼓の練習をする音が聞こえてくる。この頃からそろそろ田植えが始まる。

七月十四日は瀬戸神社の夏祭りである。瀬戸、六浦、川、三艘の順に屋台が並んで各村中を練り歩く。大道へは丁度昼頃に到着する。夜になると小川や田んぼの畦道でホタルが飛び交いホタルを呼ぶ子どもの声が聞こえてくる。

「ホーホーホータル来い。あっちの水はニーガイゾ、こっちの水はアーマイゾ、ホーホーホータル来い。」

八月の暑い昼下がりに大池の栓が抜かれる。池の中にはコイ、フナ、ドジョウ、エビなどが沢山いて子どもたちも大人も夢中で魚取りに興じる。帰り道、大堰で泳ぐ。夕方から鼻欠地蔵の前の広場に集まって田圃に水引をする。

かくらの谷戸の蓮田では蓮の実がうれて、子どもたちは蓮の実取りに夢中になる。八月十五日はお盆の中日で夕方から松明に火をつけて虫送りの行事が行われる。



大道村風景2（昭和4年3月）

【秋】

田圃一面が黄金色に染まる頃になるとそろそろ稲刈りが始まる。伊賀山の周辺の土手では彼岸花が満開となって丁度赤の絨毯を敷き詰めたようになる。山ではモズの鳴き声がある。この頃になると栗拾いが始まる。堂山から登ってお富士山を廻り、かや場あたりまで行く。小粒だが味はよい。

十月一日は山王様のお祭りである。昔はノボリを立てて参道に灯籠を建て鳥居の前に牛寿司を出す寿司屋が出て参拝する人をもてなしたと村の長老から伺った。十一月二十三日は収穫祭である。大道の田圃でとれた米は大変良質でいつも一等米であったと聞いている。

【冬】

毎年、雪は三十センチぐらい積もる。雪が降るとパッチンを作ってホオジロ、アオジなどをとって遊ぶ。お正月には新しい服や靴を買ってもらい凧上げ、羽根つき、双六などに興じる。一月十四日の朝はドンド焼きの日である。

前の日に集めた門松や書き初めを積み上げ燃やして餅を焼き、これを食べて無病息災を祈った。一月十五日頃になると、かや刈りが始まる。この行事は村中の人が出で行き大鳥居の谷戸から行く人や堂山から登って行く人もいる。この刈った茅は田圃の隅に積んでおいて三月頃、屋根の葺き替えに使われる。この作業は村中の人が出て行く。朝のうちはみんなの顔が良く分かるが午後になると顔は煤で真っ黒になり誰が誰だか分からなくなる。

夕方、屋根屋さんが刈り終わった屋根は実にきれいで女の人が髪結いに行った時のように美しいものである。この行事が終わる頃になると山の木の芽もふくらんで侍従川の四季は終わる。



御大典記念御稚児行列（昭和6年）



御大典記念御稚児行列、宝樹院にて（昭和6年）



昭和3年当時の大道の地図

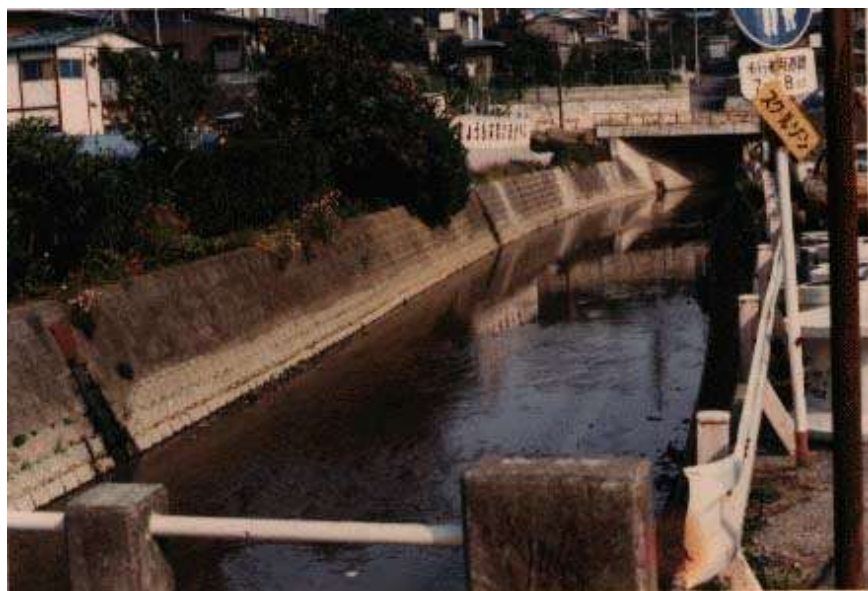
解説「侍従川の四季」について

廣瀬 隆夫

父は、大正12年に大道に生まれてずっと住んでいました。子どもの頃は侍従川が遊び場でした。この文章は、昭和初期のその頃の記憶をまとめたものです。

清流だった侍従川の原体験を伝えるために、子どもたちを集めてよく話をしていました。「侍従川の四季」は、大道小学校の子どもたちに昔の侍従川について話をしたときに、まとめたものと聞いています。平成5年に侍従会ができる2～3年前に書かれたものだと思います。

平成11年12月29日に76歳で亡くなるまで、父は侍従会の顧問をやっていました。現在の侍従会のメンバーの中にも、父の話を聞いたメンバーも多いと思います。子どもと自然が大好きで、侍従川で、子どもたちが遊べるようになったら良いなあと言っていました。晩年、視力が落ちた父が望遠鏡で山王橋の上から侍従川を見ていた姿を思い出します。



1977年（昭和52年）頃の侍従川
コンクリートで護岸され一時期は汚染が進み、悪臭と汚泥の川になった。



1997年（平成9年）頃の侍従川
地域の皆様の協力により昔の清流が数十年ぶりに戻った。

20年後の侍従川

～当たり前の20年後～ 学生部（高2） 金子 英司

小学生のころ私は、とにかく生き物が大好きで、日々、野島まで魚釣りに、近くの公園まで虫採りに行っていました。私はより珍しい生き物を発見するたびに、友達に自慢していました。そんな中、ある機会に「侍従会」と呼ばれる活動があるのを知り、その会の同年代の子たちは私よりはるかに多くの生き物の知識を持っていました。正直羨ましいと思った私はこの「ふるさと侍従川に親しむ会」に入会しました。

そして、入会して数年たったある定例調査の時、見知らぬおじさんが声を掛けてきました。「昔は、この辺りで、タナゴがいたのだけどな、今じゃ何もいないでしょ、何か採れるかい？」のような話だったと記憶しています。私は「侍従川にタナゴがいたのか!？」と驚きました。あの人が子どものころはいたはずの生き物が今じゃいなくなっているということです。その時、私は今侍従川にいる生き物たちが将来見られなくなることを想像するとやるせない気持ちになりました。また、生き物の保護にも関心が湧きました。

子ども会議でも話し合ったことがありましたが、珍しい生き物や貴重な生き物だけを守るのではなく今当たり前のようにいる生き物たちが、当たり前のように続ける環境こそが何よりも大切なのではないでしょうか。なので、私は今の侍従川にいる生き物が当たり前のようにいる20年後の侍従川を願います。

～侍従川の思い出～ ジュニア（小6） 梅本 拓実（岩手県在住）

ぼくが、侍従川の活動で楽しかったことは、たくさんあります。トンボとり大会やハゼつり大会・あし船で川下りなどがあります。でも、一番楽しかったのは、月に一回の侍従川清掃です。でも、川の掃除は、ほとんどしていません。その代わりに、生態調査として、魚や虫などをとっていました。だいたいの場合、びしょびしょになっていました。川の深い所に飛び入ったり、カメを見つけて追いかけたり、カメの卵をさがしたり、魚をおいこんでつかまえたり、トンボを追いかけたり、泳いだり、いろいろなことを経験しました。

侍従川でみんなと笑ったり、真剣に調査したり、大地君と活動をして、話が合って、新しく知ったことに、二人でうなづいているのが楽しかったし、山田さんと佐野くんには、まだ知らないことを教えてもらったり、おもしろい思い出を聞いたりしているのが楽しかったです。

横兵に行った時は、また、侍従川の活動に参加したいです。

20年後の侍従川は、活動で見た、葦が増えて、葦の近くに生き物が増えていて、カワセミが飛びかっけてほしいです。

ジュニア (小6) 深沢 大地

僕の理想の侍従川は、川に入ればカメ、ヘビ、サカナ、カエル、エビ等いろいろな生き物が採れる楽しい川です。

僕は一年生から侍従会を続けているので侍従川の工事は残念です。今年はもっと生き物や自然に関する知識を身につけたいです。

そしてまだ先の事ですが、いろいろな人に生き物の事や自然のこんなところがスゴいという事を伝えられる人になりたいです。

あと僕は絵を描く事が好きなので、これからいろいろな生き物の絵を描きたいです。



ジュニア (中1) 尾池 実 (熊本県在住)



～アユの産卵 in 侍従川～ ジュニア (小1) 鳥越 珠貴



はだかの大どさバィル



大道の池と緑を考へ自然広場を守る若人の集い 横浜サバイバル隊 協賛

—大道サバイバル隊— 会報 第1号 会員募集中!!



祝!! ^{晴手に} 結成
大道自然広場を守る若人の集い
—大道サバイバル隊—

1月

23日に雪が降ると寒い日もあり、氷も月の半分は池の表面を覆っていました。水温は最低でも4℃を下回ることはありませんでした。トンボ池の方にアオミドロが発生しはじめたこと、朝比奈の待徒川源流に採集に行ったときに種が入っていたので、オランダガラシ(クレンソウ)があちこちに群を作りはじめました。

水中の生物は昆虫ではゴミズムシ以外は何も認められません。その他モリアウガイだけはどんをみてもびっちり動き回っています。網を入れて採集してみるとマメゲンゴロウ ガゲンボの幼虫 ミズムシ(多足類)が入りました。水面にフエシャク(ガ)の仲間でしょう。ガがときどき浮かんでいました。

2月

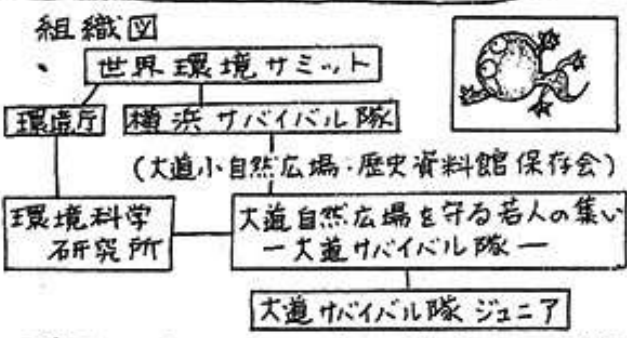
2月の水温は後半に6℃くらいまで上昇してきました。アオミドロがどんどん増えトンボ池の全面を覆ってしまいました。又水溝からの水の流れがなくなっているのに原因の一つがあるのかもしれませんが、オランダガラシも水辺で群を大きくしています。2月の末にはヒメガマやハンゲショウが水面に身を伸ばしてきました。

水中の生物は1月の昆虫に加え マツモムシが網に入るようになりました。その他アカガエルの泳ぐ姿を16日に初めて見る事ができました。

3月

戻り寒波が来ましたが水温は後半には10℃を越えるようになりました。13日にサバイバル活動で湿地を増やし、セリやフキ、ミツバなどを積極的に水辺に植えていくことにしました。3月5日の啓ちりを迎えたころから池の生物層に活気が出てきました。

8日にはメダカの子な群れを見つけ、マツモムシも採集できました。19日にオマジャクシが浅瀬に多数発生し、ミズスマシも初めて見つけることができました。またヤゴの始末幼虫がたくさん漂っていることも確認しました。22日には(おそらく)マメゲンゴロウの幼虫や抱卵しているクチボソも確認しました。また13日に梅田隊員がスジエビ10匹、モツゴ2・3匹、コオイシロを放流しました。



隊長 ナチュラリスト 山田陽治氏の談話
みなさんこんにちは。そしてス隊おめでとう。山に海に自然がほくらを呼んでいます。テント泊 野宿をし、仲間意識を深めたり、仲間の輪を広げたり、飲み食いしたりと、誠心で崇高なる団体です。入らないとバチが当たるくらいです。

炊事班長 公務員 梅田孝氏の談話
池の周りで楽しいイベントやるから来てね!!
こないと喰っちゃうよ!!

事務局長 尾上伸一(筆者)の談話
この会の活動を通し、自分自身を見つめ直し、人間性に磨きをかけていきたいと思ひます。

相談役 教育者 古家史生氏の談話
隊長以下、わたしの顔ぶれ?(直筆)
子供の頃、トンボを追いかけ、おせ道を走りまわった。今でも、今でも、今でも、役立ってます。
無理にわかってる相談に来ないでね!!

3月13日の活動力(参加15名・ジュニア18名)
・池の湿地面積の拡大 10:00~16:00
・拡大にともなう木杭うちと木橋作り
・採集:セリ・リュウノヒゲ・朝比奈湿原の土ヤマササエトンボのヤゴ トビケウ幼虫
・トン汁作り(ジュニア女子)
・入水溝の清掃 プール裏からの入水回復

平成5年6月～平成7年3月 大道ふるさとへの生き物に親しむ会での歩み



学生部
侍従川源流調査



大カ合

1993.6.5.
大道ふるさとへの
生き物に親しむ会
祝 結成

ふるさと侍従川に親しむ会(前身)
1993.6 ~ 1995.3.
大カ合での歩み
大道ふるさとへの
生き物に親しむ会

10月9日
森へ
観察の



2年間 1993~1994
さんなこと・あんなこと
わってきました

学生部 各地の発表会で取り組み発表紹介

- 8月30日 神奈川県野生生物保護発表大会
- 8月27日 全国トホ市民開港記念会館
- 7月22日 江地区センター
- 6月2日 野島野島ビ-500にて
- 6月9日 上郷市都の森川海も見えるシボにて
- 金沢区民会議にて
- 8月30日 三好市立中央公民館 賞受賞 全国大会

5月~6月
侍従川の
ホタル調査
多発生地調査
源流の森は
ホタルがいっぱい
いこうと分かる。

ホタル
学習会
観察会
6.12.

金沢 11月12日
水の日



10月8日
侍従川源流
ハイキング

1994.夏 調査 アユ・河物
侍従川定例調査でなども発見。





優秀賞受賞 全国大会には
出れる予定

学生部
神奈川県
野生動物保護
実践発表大会
出場

しぜん広場
拡大作業



池完成

8月7日
夏休み
生き物野外
教室



7995年度の活動
総会 4.23.



5月14日
朝比奈
朝比奈

学生部 '94.3.26.
第9回よはま川と緑を
子ども会議に参加・協力



学生部
横浜市 12.11
環境センター
で取り組み発表
日誌
3月
30日
「大道しぜん
広場について」

8月28日
夏休み
生き物野外
教室



1994.夏
しぜん広場で
バニト泳が
多数発生

大道しぜん広場
整備作業
(バニト) 8.6.



3月26日
第10回
よはま川と緑を
子ども会議
横浜各地から集まった
子どもたちできれいな川
をとりもどす話し合いと
侍従川クリーンアップ
を行う。

環境庁長官賞受賞
全国野生動物保護実践大会
愛鳥のつどい

学生部
12.10.
横浜市
環境センター
で
取り組み発表

1994.秋 学生部
侍従川に
水質保全
取り組み

第29回全国野生生物保護実績発表大会（平成6年12月12日）

環境庁長官賞 講演録全文

「ふるさと生き物・ふるさと河川を守り育む実践活動」

横浜市立大道小学校・大道ふるさと生きものに親しむ会

ふるさと生き物を守り育てる大道しぜん広場

横浜の最南部に位置する大道小学校には小学生・卒業生・地域の方々・教職員が力を合わせ、手作りで仕上げた池を中心とする“しぜん広場”があります。

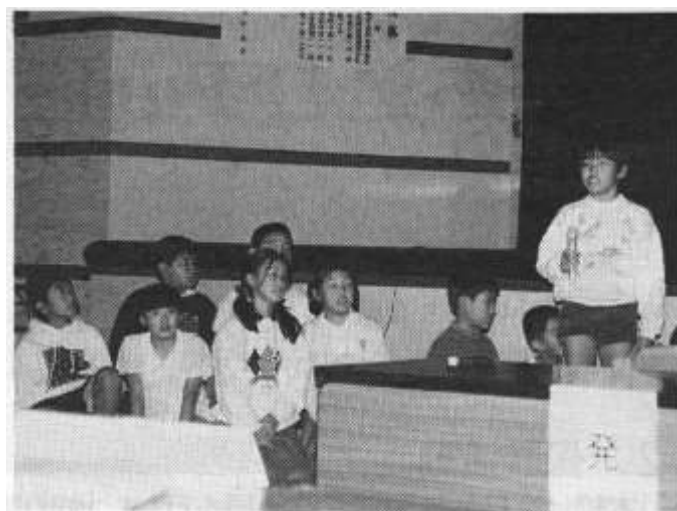
平成4年8月から2年間に亘り、少しずつ作業を続け、現在ではメダカ池・トンボ池・ホタル池・カエルの丘などの愛称で呼ばれる場所が広場の中にできました。作業に加わった人々は、200名をこえ、今では学校内にある地域の宝物のような存在になっています。

フキノトウが顔を出し、ヒキガエルやアカガエルが卵を産みにくると広場の一年がスタートします。広場を創る前は生き物をどのようにして増やすか、ということが一つの課題でしたが、いざ仕上がりしてみると、その点は全く心配いかなかったことが分かりました。というのは、この広場はプレハブ倉庫3つを徹掘し、コンクリートをはがしたあとに造ったのですが、その場所は南側に雑木林からなる里山があり、30年前は湿地だったことから、本来あるべき姿に戻したといえるからです。

自然の復元力に驚かされる日が続きました。環境保全局からいただいた横浜地方種メダカを百匹放したところ、翌年には数えきれないほどの子メダカが成長し、それらをねらって近隣の森からカワセミが、川からコサギがやってきました。春は何万というオクマジャクシが泳ぎ、カエルになる頃、ヤマカガシ・アオダイショウといったヘビが現れます。飛来する生物の指標、トンボは2年間で24種を発見しました。中には市内で数例の確認しかないベニイトトンボが夏に飛びかい、交尾産卵を確認するとか、都市化で急速に姿を消しつつあるマルタンヤンマ・ヨツボシトンボが今年も含まれています。これらの発見は、全て小学生・卒業生のもので、野生生物と同様に子どもたちも広場で育まれている様子がうかがわれます。

ふるさとの自然に対する思いが重なる

こんな広場の移り変わりを見ていくうちに地域の中で、「創っただけでなく、守り育てるサークルを作ろう。」という声が大きくなりました。そして平成5年6月に地域の森や川を調べ、守ったり育んだりする活動・地域の子どもたちに伝えていく活動を行う団



体、「大道ふるさとの生き物に親しむ会」が結成されました。

中学生が主となった調査活動

大道ふるさとの生き物に親しむ会には学生部を設置し、現在、地域の中学生25名ほどが加入しています。活動の中心は地域内の生物層調査です。

中学生の調査で多くのことが分かりました。

1. 侍従川源流域

大道の町の中央を流れる侍従川は、朝比奈の森と呼ばれる山に端を発します。この山は横浜市としては壤が深くホタルの多産地です。市で確認していないホタル発生地も3か所見つけました。源流は5つの沢が本流にそそぐ溪相ですが、沢を観察していくと全てにホタルの発生が見られ、ミルヤンマというトンボの多産地になっていることが分かります。カワトンボ・カワゲラなどの川が大変きれいなことを示す指標生物も多く、パックステストによるCOD値は常に0です。しかし、残念なことに本流が高速道路の朝比奈I.C.の下となることから暗きょ化され、生活排水、工場排水で汚染されCOD値が20と、生物がほとんどすめない川となっています。

2. 侍従川上流～中流域

侍従川は小さな河川ですが、横浜市の立派な水系の一つとなっています。中流はすでに海潮域となっており、大道小学校の脇は汽水域で最も多様な生物が観察される所です。

海水が入らない部分を上流とすると、上流の上半分は問題点だけが指摘されます。というのは、三面コンクリ張りのただの水路だからです。時折ホトケドジョウなどの発見もあります。数・種類ともごくわずかです。川底のコンクリ張りが解除される地点から汽水域までに多くの生物を発見しました。その中でアユの遡行とメダカの定着は、アツという間に地域内に広まり、地域の方々の侍従川を見る目がずいぶん変わってきました。また調査中にカワセミ・コサギ・ギンヤンマなどの生物が、川の上空をまる

でレールにのったように飛んでいる場面に出くわしました。大道しぜん広場にやって来る生物の多くが、この川で森や海とつながっていることを実感しました。

汽水域では、この川がハゼの仲間の豊庫となっていることをつきとめました。マハゼの他、チチブ・アベハゼ・ビリングなどで鑑定できなかったハゼも2種類いました。

中流域の問題点は、何といってもごみの多さです。そしてかつては意義深かったであろうコイの放流も、生態を考えると間違っていたと言わざるを得ません。夏にウグイを一尾確認しましたが、本来この川にいるべき生物の復元をコイが妨げていると思われます。

ふるさとの自然を伝える活動

以上のような調査結果を基に「大道ふるさとの生き物に親しむ会」では、中学生がリーダーとなった地域・区内での啓発活動を行ってきました。

カワトンボ観察会・ホタル観察会・生き物野外教室などイベント形式で行った活動には、毎回地域内の多くの子どもたちの参加があり、ふるさとの自然の素晴らしさを伝えることができました。

また自分達でも驚いた川の生物層については、「侍従川水族館」というテーマで小・中学生が採集した生物を区が主催するイベントで展示したり、「侍従川ふるさと生き物看板」というテーマで、観察できる野鳥や魚類・甲殻類を絵に表し、川沿いに掲示したりしました。これらの取り組みは区の広報や新聞などにも取り上げられ、地域の方々の川への思いも着実に高まってきています。

ふるさとの自然・生き物を守る活動

調査結果の項目で述べた問題点に対処する活動は、現在学生部として最も力を入れている点です。

源流汚染については、汚染している物質を少しでも取り除くため、シヨウブ・クレソン・ミゾソバなどの植物の植え付け、蛇かごを作りコンクリ張りの川底に変化をつける、木炭を蛇かごの間につめるなどの対策を試みています。上流～中流域では、自分たちだけではごみを拾いきれないので、町内会で侍従川クリーンアップの活動を取り入れてもらいました。成果を上げた活動としては、アシの植栽が挙げられます。大道しぜん広場から流されたメダカは、雨水管で侍従川に入ります。そのメダカにとって、我々が植えたアシの原は絶好のすみか、隠処になっています。そのことから今、大道小のまわりの侍従川でメダカが増えてきているのだと思います。

以上、活動の一端をまとめましたが、これらの取り組みは多くの人々に知ってもらうことで道が開けると考えます。今までに市長・区長を交えた区民会議で、学生部長が現状の報告をし、対応を要望したり、市内でのさまざまなシンポジウムで、学生部が発表したりしたことを最後につけ加えます。

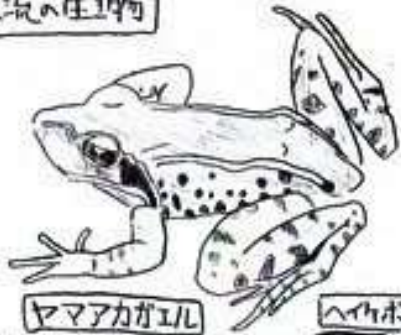


発表者：飯村優介・常山善弘・今井優子・大泉千・大崎秀樹・大野竜海・蒲谷知也・北村文孝・佐野康司・清水やよい・須藤麻由美・田中絵美・田中一步・長谷川彰彦・宮沢恵美・山崎さやか・山根隆志・吉武和治・渡辺成顕・吉田竜二・大島幸子・佐々木原梢・鳥居佳史・相川真理子・飯塚晋平・岩波由莉・毒園正仁・永井美香・幅隆太郎・鉄木佳志・塚越隆一・星宗徳・安藤博光・犬塚隆一・海江田亮伸

侍従川生き物MAP

1995年調査版
ふるさと侍従川に親しむ会

原流の生き物



ヤマアカガエル

湿地の水質の
1/3の濃度を保
てて暮らす。



カゲロウ
流水の森に生息
6月〜3月5月

ヘイケボタル
湿地に生息
7月〜9月5月



サワガニ

水質の森に生息
カニ。二地域に生息
は淡青色。



汚水発注



カマキリ

(幼虫) (成虫)

水質の森に生息
カマキリ

朝比奈川

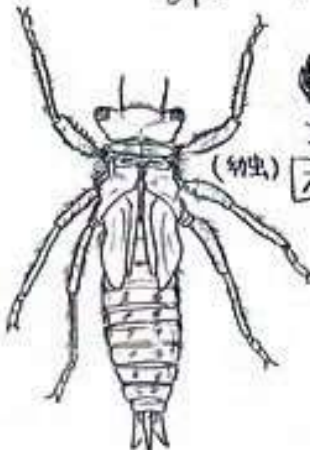
カマキリ

流水に生息
カマキリ



カマキリ

(幼虫) 暗・林内と流水
小川に生息



カマキリ

(幼虫) (成虫)

カマキリ

流水に生息
カマキリ

カマキリ

流水に生息
カマキリ

二から下流は
三面コンクリート

カマキリ

(幼虫) 水質の森に生息
カマキリ

カマキリ

カマキリ

カマキリ

カマキリ

カマキリの仲間 ほぼ同じ生息地で種名不明。

カマキリ

カマキリ

カマキリ

カマキリ

カマキリ

カマキリ

海から源流まで
上ってくる大型のカマキリ。

上流の生き物



スズキ

流水域の魚であるが
上流の三面コンクリート水路でも
見られた。

カマキリ



カマキリ

汚い水にも生息。

カマキリ

水質の森に生息
カマキリ
大連中学校内の流水に生息
するカマキリは極めて少ない。

No.28

カマキリ

白と黒のモトの色。尾を上下に振る。

6月22日
侍従川
Dr.探検
行方
発見



6月9日
横浜市
環境保全活動賞
受賞



5月19日
TVKに出演
学生部



5月15日
金沢東ロータリークラブより
学生部の
ボランティア活動
表彰される



6月2日
野島
しせん観察会
野島
ひろう



4月29日
NHKで会が紹介
される。
日街のトンボを呼
びもとせ

川の
観察会



侍従会の96年

10月13日
第3回
金澤水の日



9月29日
源流たけん
10月6日
自然公園
調査

8月10日
侍従川
野外教室
大道中



7月13日
Dr.探検クラブ
と合同で
侍従川
コロッセア



10月19日
環境教育
プログラム
大曽根
小学校

8月3日
しせん広場
アドロの除去
と水藻の確保



12月14日
横浜市
環境センター
274号

11月4日
円海山緑地
おもしろい
イベント



8月5日
しぜん広場
整備
マコモぬき
猛暑
源流
たんけん

侍従川
3月27日
3月27日
侍従川
観祭の日
スミウキゴリ発見

7月30日
6月10日
侍従川
観祭の日
スミウキゴリ発見

5月13日
朝比奈ハイキング
たけなえ
ふいた



活動：あゆみ 95年

7月21日
西地区青少年
指導員主催
カエルの子を
聞く会

2月17日
カエルの子を
聞く会

3月10日
金澤 地図はらん会



立体マップ、シネマップ 出品

3月30日
第2回子ども
会議

侍従川
調査
侍従川
調査

10月21日
環境教育
シンポジウム
侍従川
水族館 展示

アイリン・マダムス
先生やってくる。
イカダせいしよにわた。



侍従川
三つのイカダ
海まで下る

8月19日
第3回 野外
夏休み 教室
生きもの博士。首留
。魚とり。いかた
。竹ざいく



10月15日
水
第2回 金沢
の
田



もう一度 子どもたちが遊べる川に

侍 従 川

ふるさと侍従川に親しむ会

かわらばん

第1号

侍従会 広報部 発行

日頃より、「ふるさと侍従川に親しむ会」の活動に対しまして、あたたかいご理解とご支援をいただき、有り難うございます。さて、当会も結成から今年の6月で満4年を迎えることができました。これまでの活動の積み上げも大変大きなものになってきましたが、今後のことを考えると、活動を記録したりまとめたりすることの必要を感じております。そこで、事務局に広報部を設置しみなさんの声や情報・事務局からの連絡などを「かわらばん」という形式でまとめてみたいと考えました。会員の皆さまにおかれましても、是非ご一読下さり、情報などありましたら事務局にまでお寄せいただければと考えております。

会長：相川 澄夫

活動の足跡

(1997. 4月～8月についてです。)

4月：侍従会年報の発行

1995年度と96年度の2年間にわたっての活動をまとめたパンフレットを作成・配布しました。

*お手元にまだ年報がない方は、事務局に残があります。ご連絡を。

環境保全局に助成金申請

5月：年間計画の検討・各方面への連絡

*実行委員会を開催

6月：14日(土) 朝比奈ハイキング

22日(日) 総会

Jr探検クラブ入学式

7月：26日(土) 侍従川クリーンアップ

*大道町内会に協力いただきました。

*実行委員会を開催

8月：9日(土) しぜん広場整備活動

10日(日) 夏休み野外教室

*金沢総合研究集団(キャッツ)との連携で行いました。

＜あんな・こんな＞

いよいよ平成9年度の活動がスタートしました。ジュニア探検クラブにも新しい仲間が大勢参加してくれ、会の役員一同とても嬉しく思いました。やっぱり、森や川で子どもたちと活動していくことが、この会の大きな意義になっているんだな、と再認識できました。

6月には、暑い暑い中、朝比奈の一二所果樹園まで虫とりハイキングに出かけてきました。途中の山道は、照りつける日差しにみんな汗だくだく、「もうお弁当にしようよ。」と弱音を吐く子もいましたが、果樹園の山頂にたどり着くと吹く風もさわやかで、みんなせっせと虫さがしに精を出していました。

7月のクリーンアップには、老若男女大勢の参加があり、たくさんのゴミを拾うことができました。残念なことに、最近、汚水の垂れ流しがあつたようで川が真っ赤に濁っていました。

記憶に新しい8月連日の「しぜん広場備」と「野外教室」。みなさんご苦労様でした。大道小学校のしぜん広場も保全され、拡大の下地もできあがりました。また野外教室には、広報不足にも関わらず大勢の子どもたちと学生そしてキャッツから頼もしい助っ人もやってきてくれました。イベントを行って、みんなの一体感が培われたような一日でした。

みんなの声

- 7月中旬に、上流部から一番に鉄さびのようなものが流された。という情報がありました。7月26日のクリーンアップでは、みんなが歩くと川底から赤茶けた鉄さびのような汚泥が巻き上がりました。ひどいところでは、10cm近くも堆積していてよほど大量の廃棄であったことがうかがわれました。
- 8月上旬に、お子さんがJr. 探検クラブに所属しているお父さん（ご本人も強力な会員ですが）から連絡をいただきました。金沢八景の駅近くの古木が3本切り倒され、その根についていたアブラゼミの幼虫が羽化場所がないままに歩き回っているうちに、次々と自動車にひかれていくというものです。木1本がたくさんの生命を育んでいるということに改めて感じました。
- 8月9日の「大道しぜん広場」保存作業では、みなさんの勇ましい声が鳴り響く1日でした。「しぜん広場拡大計画」に乗っ取って、掘り起こした桜の木をトンボ池に移植しました。「根がつけば、花見ができる。根がつかなければ、カワセミのとまり木になる。」どっちでもOK。というのがとても分かりやすく良かったです。
- 8月10日「野外教室」も連日にも関わらず、大勢の方々の参加で盛り上がりました。会場である侍従川大道東橋に海からカヌーでいらした実行部Sさんは、イベント終了後、「お先に失礼します。」という言葉を残して、単身、海に戻られました。カッコ良かったです。

侍 従 川 NEWS ー 侍従川の表情ー
学生部から寄せられた情報をもとにまとめています

春から夏の侍従川

観測者： 飯村 優介

- 一源流域 2月から4月中旬頃までの高温で、山菜のシーズンも早まった。
- 一3月一
 - 明戸橋周辺 小さいシラスを捕獲。
- 一3月25日一
- 一源流域 桜の開花・タラノ芽採り合戦が朝比奈の森で始まる。
- 一4月上旬一
 - 源流域 ウド・天然シイタケのなり。今年はやや良。湿地のセリ・カンゾウののびも早い。
- 一5月下旬一
 - 切り通し沢のホタル（ゲンジ）発生し始める。
- 一6月2日一
 - ゲンジホタル・ヘイケボタルともに10近くを確認。
- 一6月14日・16日一
 - ゲンジボタル30～40・ヘイケボタル50～60を確認。発生のピークのころ。
- 一6月20日一
 - ゲンジボタル10～20。発生の終末に。
- 一6月22日一
 - 大道橋周辺** ドジョウやチチブの姿が目立つ。コンクリートの上に土が積もり、ミゾソバ・セリなどの湿地性植物が茂ってきた結果。ウナギも増えてきた。オニヤンマ・ミルンヤンマなど溪流性トンボのヤゴを多数確認。スミウキゴリは、橋の下で20前後を確認。数を増やしている。アユも遡上。今年は、やや遅いようであった。
- 一7月29日一
 - 大道橋周辺** 廃棄されたサビの影響を受けて、生物の姿が目立たなくなっていた。

秘蔵写真大公開（平成10年4月～平成19年9月）



市長と語る会（ふるさと侍従川に親しむ会） 2000.8.4 市長公舎

横浜市長 高秀秀信



H10.4.19 山菜採りハイキング



H10.5.21 海の生き物観察と潮干狩り



H10.6.20 定例クリーンアップ



H10.8.9 夏休み野外教室



H10.10.4 定例クリーンアップ



H10.10.4 大道ヨドリーフェスティバル



H12.1.22 第23回環境セミナー



H12.3.19 しぜんを唄おうコンサート



H12.4.2 山菜採り&お花見



H12.12.17 定例クリーンアップ



H13.5.20 森のオリエンテーリング



H13.6.17 横浜市環境保全活動助成団体成果発表会



H13.7.29 いかだ川下り大会



H13.7.29 定例クリーンアップ



H13.8.19 夏休み生き物野外教室



H13.9.16 侍従川大探検パーク



H14.2.10 ネイチャークラフト教室



H14.3.30 しぜんを唄おうコンサート



H14.7.27 いかだ川下り大会



H14.9.21 はせ釣りとバーベキュー



H14.11.24 炭焼体験教室



H14.12.21 忘年会 (箱根)



H15.3.30 定例クリーンアップ



H16.12.12 もちつき大会



H17.1.29 葉山磯遊び



H17.3.6 子ども会議



H17.4.24 メダカ水路復活大作戦



H17.5.8 オールクリーン野島



H17.6.5 侍従川大探検



H17.7.24 侍従川イカダ下り



H17.9.5 金澤水の日



H17.10.30 学生部秋の魚獲り



H18.1.28 葦刈り&定例クリーンアップ



H18.2.11 葦船作り



H18.6.17 初夏の虫取り大会



H18.11.11 とんぼ池の整備



H19.4.22 葦船進水式



⇒ 続きは「だぼはぜ通信」で
<http://jijyukai.web.fc2.co>



H19.7.28 水辺安全講座



H19.9.2 川のフォーラム流域編